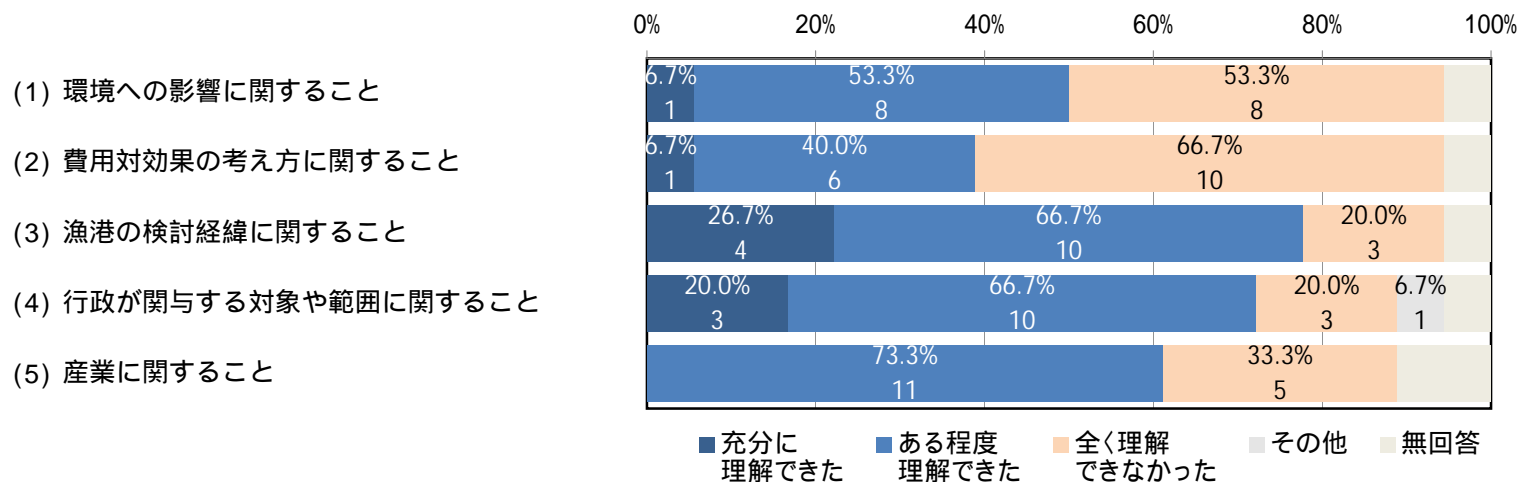


Q1 第5回のワークショップのなかで、理解が進んだことはありますか？ またそれは、どの程度ですか？



### (1)~(5)に関する補足の意見や感想

- ・ 第一次、第三次産業間の結びつきを拡充すべき。
- ・ 自然への負荷を増やす「漁港」建設には反対。ただし代替案要

環境や産業、防災に関してみても、現在の 案 ( ~ を含め ) は事実上無理がある！

(4)について、漁業権と行政の関わり、法律改正の可否などが知りたかった。ソフト面での漁業のサポートとして、このあたりの改善も可能と考えて知りたい。

ワークショップを始めるにあたっての市からの説明が不足であったのではないだろうか。

環境アセス、費用対効果がまったくできていない。

B/C分析、代替案の検討、いずれも市役所はこれだけの時間があれば、もう少し突っ込んだ内容が提示できるはず。市の怠慢、誠意が感じられない。

## 第5回WSでのアンケート調査結果

### (6) その他、第5回ワークショップのなかで関心が深まったことや理解が進んだことが何かありますか？

漁港と漁業、どちらも鎌倉市民の立場に立って議論すべき。直接利害者だけの課題ではない。

- ・ 海岸利用の歴史に触れた。
- ・ 漁業の置かれている現状を理解した。

他の拠点（小坪・腰越など）と合併するという事はできないという理由はいわゆる”伝統”としての漁法が違うからだということ。新しいことを知った。しかし、それは解決できないことなのか？数十億の税金をかけることとどちらがよい解決法なのか。

直ちの漁港建設には無理があるので、まずはすぐに出来ることをするべき。

漁業者の方々の思いで、一次産業のあるべき姿、市民との関わり方の希望を聞いたこと。

漁港ではなく、台風被害にあわないように先に考えてほしい。

やはり漁港ありきな進み方を感じる。

市の条例のために、船の避難場所の制限、小屋の建て替えの制限などになっている。

上記[Q1 補足意見：WS開催への市の説明不足]の不明な点が話し合いによって幾分解消されたものと思われます。

現状で漁港を造るには無理がある。もって迅速かつ有効性のある解決策が必要。

造る造らないの2択ではなく、段階が必要。ビジネスの視点。

漁船漁具置き場の現状を視察する事。

逗子マリーナ、小坪（逗子市）とも協力し、使用料を安くしてもらう一方で、朝市を開催し、観光客集客や水産物販売収入増を図るような、代替案がありうる事がわかった。（漁業者の方もその方がメリットがある）逗子マリーナ、小坪に市役所から投げかけてもらえないか。

### Q2 第5回ワークショップのなかで、質問や発言できなかったことが何かありますか？

次の予定もあるので、終了時間は守ってほしい。

先日、東北の漁協も統合していくとニュースで発表になっている今の日本で、ここ鎌倉は新しく漁港を造るなどと提案する事には無理があるのではないだろうか？

鎌倉らしい文化的で大胆な提言にまとめあげたい。（漁港を造るなら造るなり、造らないなら造らないなりの大胆な案）

港を造る他の対応や台風等の時の事を話していきたかったが、やはり港ありきな感があった。

漁港の環境への影響が一番大切な1つなのに何も科学的に検討されていない。茅ヶ崎の事例を研究すべき。

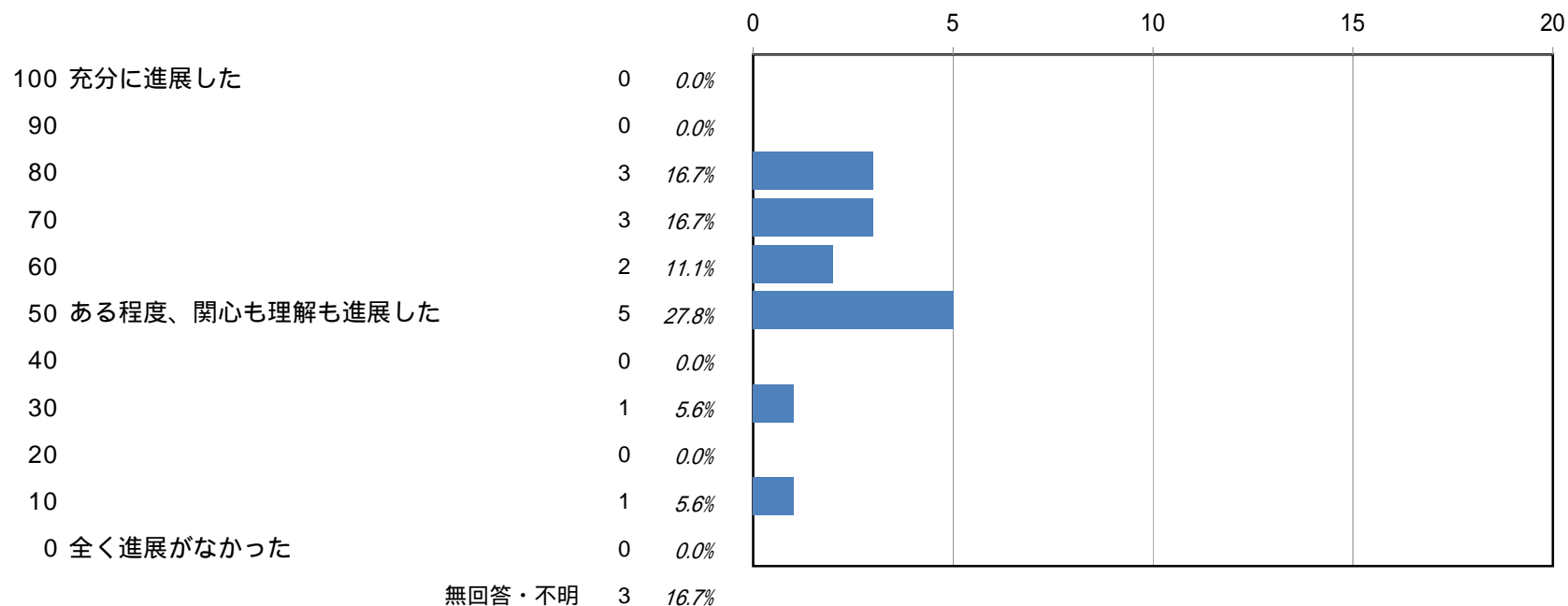
## 第5回WSでのアンケート調査結果

行政・漁師さんVS市民の構図になっているままでは先に進めない。

市民の多くが税金の使用目的として新港建設に反対であることをもっと意識すべきではないか。

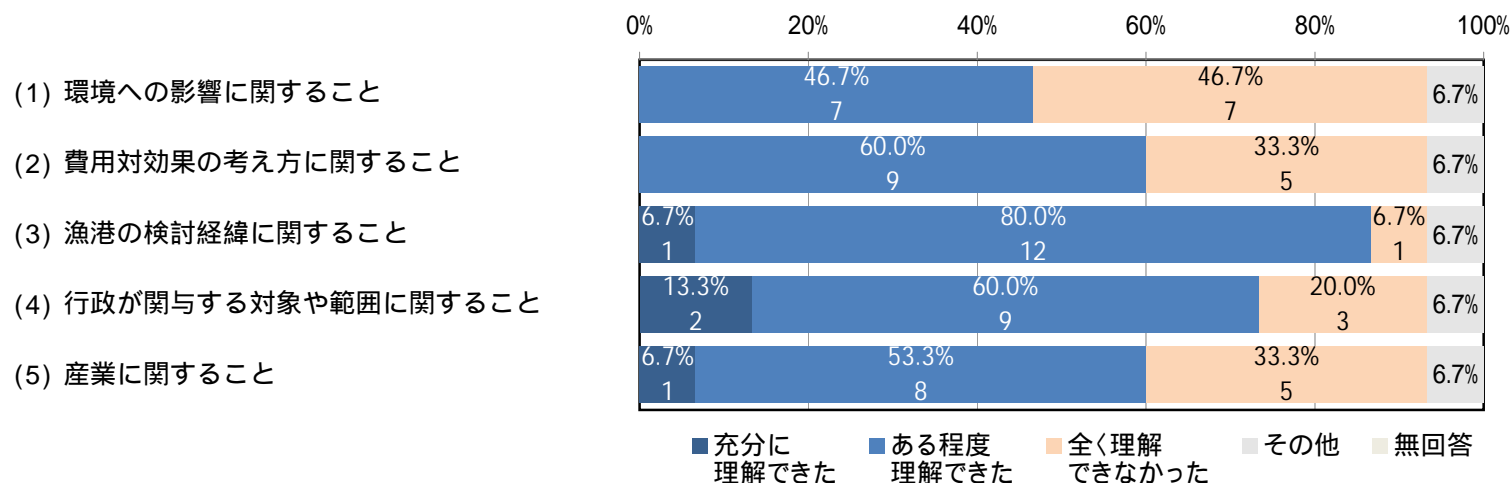
市民感情は震災と鎌倉市の財政から考え、茅ヶ崎等近隣の事例から考え、何十億もの税金を漁港に投入するのは無理がある。市民理解を得られないと思います。Webでの市民の声集約など定量的に把握する努力もお願いしたい。

**Q3 これまでのワークショップを経て、漁港建設を取り巻く現状の確認や問題点（構造）の把握に対するご自身の関心や理解は、どの程度進展したいと思いますか？**



## 第5回WSでのアンケート調査結果

Q1 第5回のワークショップのなかで、理解が進んだことはありますか？ またそれは、どの程度ですか？



### (1)～(5)に関する補足の意見や感想

検討するポイントは分かったが、それらが基本的に進んで無い事が分かった。

(1)不足 (2)無能力 (3)表面的 (4)変えよう (5)努力不足

(3)の説明がやっと今回ありました。

3.11のあと無理がありすぎる。

環境アセスや費用対効果などを<計画>になってからでない...というのは疑問！結局計画になれば途中でまた税金が沢山かかって、2010の修正予算の時みたいに「今までの事がもったいないから」ってなるんだと思う。

(6) その他、第5回ワークショップのなかで関心が深まったことや理解が進んだことが何かありますか？

更なる協議が必要だという事

公共事業がいかにかいい加減が分かった。

(3)の資料だけ

いくら議論してもやはりマリンスポーツ愛好者とはなかなか理解しあえない。

本当に漁港を望んでいるのを漁師さんから感じず、また、自分達の事優先で市民に対するビジョンとか感じられない部分があり...実は市議員や市の人(行政)が造りたいの？と思った。

「環境問題」というものを全面に出されると反論の余地がない。毎回困る。

Q2 第5回ワークショップのなかで、質問や発言できなかったことが何かありますか？

傍聴席なので基本出来ない。 したい。

デザインWS賛成

傍聴なので

費用、環境破壊、景観破壊、優先順位等どこをとっても漁港建設は無理である。

漁港建設のワークショップをする前に、なぎさシンポジウムや津波の専門家の話、パネルディスカッションなどをやってもらいたい！

市は、市民への情報発信をさらに進めてほしい。

どこに向かって議論しているのかわからなくなるような意見が出ていた。漁師・市民互いにもっと理解しないと意味が無いのでは！

賛成、反対の対立はよくないという意見があったが、確かに反対者の代表者のプレゼンは聞いてみたい。どこまで本人にとって重大な事なのか疑問。

話し合いにおける素材が足りないように感じる。

反対の意見を抽出すると、費用や環境、風景、防災と様々な意見が出るが、具体的な数値や背景が見えない。

しかし、それは港の具体的な構想が漁業側にも提示できていないことが問題だろう。

私は、現在大学の研究会で、鎌倉漁協の取材をしている者で港の建設も賛成の立場を取る。

これからの創造的なWSにするためにも、漁業者の提案する形の港のモデルを実際にシュミレートし、それに応じて費用対効果や環境アセスの具体的なデータを出すべきだと思う。

## 第5回WSでのアンケート調査結果

B/Cや環境アセスの考察が施行決定後というきまりが足を引っ張っている。

具体的なデータがないことには、同じ議論が堂々に巡るだろう。

逗子マリーナを使った時、掘り込み式の港を造った時、漁業関係者の理想とする場所に造った場合、それぞれ比較論を出来るようにすべき。

また、話し合いのメンバーの選出にも議論が必要である。

建築家やデザインといった領域の人間も交え、“手を動かし、可視化した議論”を行っていく。そして両者の歩みよりを誘発すべきだろう。

“港”という言葉。イメージにコンセンサスがとれていない。

漁師たちが欲しているものは、船を穏やかに離着できる環境であり、とても小規模なものである。裏を返せば、港という環境でなくとも安全な離着が可能であればなんでも良いのだ。

それを頭ごしに、費用や景観の声でかき消すのはどうかと思う。

**Q3 これまでのワークショップを経て、漁港建設を取り巻く現状の確認や問題点（構造）の把握に対するご自身の関心や理解は、どの程度進展したいと思いますか？**

